

伊佐家と周辺を歩く(2)

174号からの続きです



伊佐さんの道標から

4月23日伊佐家を出る頃には雨はやみました。

江戸時代の
上津屋村は幕府領2と三条

家1と大炊御門1の計4つの庄屋が村の運営を担っていて、伊佐家は幕府領浜の庄屋さんでした。その伊佐さんが1819年に作った道標を見るために木津川沿いに向かいました。上津屋御旅所前の道標には「川越東ハ長池 宇治へ」「堤通り南

八幡まるごと館だより

2024年7月10日/176号

<発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)

(E-MAIL) yawata@marugotokan.net
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい

八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。



ハ天神森 奈良へ「堤内西ハ楠葉 枚方へ」「堤通北ハよど 八幡へ」と書かれています。この道標からこの地域が木津川の水路と(横の街道の)陸路の接点で東西南北の交通の要衝だったことがわかります。当たり前ですが、自動車はないし、当時は交通で船が大きな位



工事中の流れ橋、手前は茶畑



置を占めていたんです。渡し舟の船頭は上津屋・浜の住民で生活困窮者から4人をくじ引きで決めていました。その人たちは庄屋から米3石をもらいました。村人は渡し料金無料ですが(造船代は村人全員がだしていた)、街道から乗船する人が多くなって

水俣病(三)
以前の水俣では漁業を生業にしている家が多く、食べるものは畑でとれた野菜や芋、たんぼく源では不知火海の魚貝類でした。子どもは家の前の海で貝を採って小さな空き缶でゆでて針で突き刺しおやつに。貧しいかもしれないけれど、豊かな自然の中の、のどかな情景が目につかびます。◆1961年8月水俣明神崎の家の縁側で遊ぶ二人の少年との出会いが原田正純さんのその後を決めました。母親の胎盤から有機水銀を吸収、生まれてからずっと治らない障害をかかえて生きて行く胎児性水俣病患者。彼は1955年から1958年まで患者が多発した三地域で全戸調査をし、生まれた子どもを調べ、220人中13人も子どもが脳性小児まひと診断されましたが、堂々と胎児性水俣病と言いつのを憚られる状況でした。このことは1963年新潟阿賀野川流域で第2の水俣病が発生した時もそうでした。娘や息子が結婚するから、差別を恐れて誰にも言えないと長い間我慢を◆1956年5月1日に水俣病が公式確認されて12年も経った1968年には公害病認定、原因や責任も確定されました。◆その間もチソンは有機水銀を含んだ排水を流し続けていました。国や県の責任者は変わる、けれど患者は変わらず、ずっと病気を一生背負ったままです◆原田さんは患者の掘り起こしに水俣以外にも足を向けます。またボランティアを募って大規模な住民健診(17か所も、50年関わり続けた原田さんは「水俣病はまだ終わってない」と◆14年かけて1990年に埋め立てられた水俣湾、55haにもおよぶ広大な埋め立て地の中には高濃度の水銀ヘドロや水銀で汚染された無数の魚たちがいます。その地の一角に魂石(たましいいし)と呼ぶ石仏・地蔵が安置されています。熊本県水俣市の「本願の会」の方々が1994年より「水俣が私に問う日」と儀式を行い石仏を安置しています。



今年5月18日流れ橋(ネットから)

、利益がでるようになると村に稼ぎを年1500文上納した。その内東向きの人達は何故船頭になれないのか、1艘しかない渡し船を略奪するという事を起こしました。村の運営の形が変わってゆくきっかけになったようです。他にも不満があったようですから。

流れ橋

川の方を眺めると上津屋橋(流れ橋)は工事中でした。既に20数回も流されています。長さ356.5m幅3.3mで木橋としては日本最大級です。1953年(昭和28年)橋が出来ました。それと共に渡し舟は廃止されてゆきました。当時の東向きは現在城場、その北は久世郡久御山町になっています。5月17日に工事中の流れ橋が修復、上の写真は18日のものです。そ

の前面一体には茶畑が広がります。「浜茶」です。この風景は2015年日本遺産に。

石田神社へ

2016年11月に「歴史を訪ねて」で石田神社に行きましたが、今回は鳥居の前で出口さんに話をさせていただきました。歴史講座での内容ですが



石田神社鳥居

神社鳥居前の十三の塔



神社の祭礼の時神輿は里や浜を練り歩きますが、東向きにはいかなかったんです。だから、

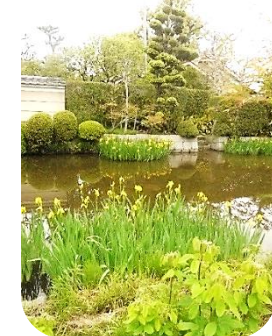
東向きの木津川沿いに「石田神社遙拝所」の碑が建てられた。少しでも東向きの不満が解消されたんでしょうか。今は城陽市ですが、現在も碑はあります。

元三条家庄屋に



旧三条家庄屋

石田神社から少し歩くと見えてきました。伊佐家と同じく家の周りに堀がある環濠住居です。このお宅は伊佐家のように公開されてないため外から拝見するのみです。この2軒は本所に近いです。村人はどちらの庄屋さんの管轄に入ったんだろうか、年貢を納めるにしても、と色々思いました。最後には四季彩館で食事を。



映画上映会

＜6月にこんなことをしました＞



パッチワーク講習会



6日 今まで取り組んだ中で一番難しかったように思います。西角千代子さんと前川和子さんに教えていただいています。前にも書きましたが、間違いをしてお二人にびっくりされている私たちですが、本当に根気強く教えて下さっています。ハートの形が多くて線を合わせるのが中々でした。何度も

八幡に愛着が

今出口さんの講座で上津屋村の話をしていただいています。1953年に流れ橋が出来るまで、木津川や淀川を渡し舟が頻りに運航していたんですね。今では想像だけに出来ませんが、その陰には多くの住民たちの苦勞と努力がありました。伊佐さんの庄屋の記録から今こうして細かく知ることが出来るのは嬉しいことです。過去とつながっての今ですね。また少し八幡のことを知ることができました。



四季彩館で



5日「はい泳げません」を見ました。題名からは推測できない程のこと、水を恐れるようになった過去の事情が明かされていきました。それを泳ぐことから逃げないで乗り越えていった主人公の姿は、誰でも抱えていることと重なるようにと思えました。

縫い、又ほだいてまた縫うという作業を繰り返しました。完成したら嬉しかったです。西角さん、前川さんありがとうございました。これに懲りずにまたお願いします。



オカリナひまわり



10日 ずっと同じことを9年も取り組んできています。と言ってもコロナ禍の3年は出来なくて辛かったですが、初めの内は演奏が中々合わなくて練習を重ねて合うようになってきます。そうやって克服してきました。毎週月曜に楽しんでいま

す。皆で楽しむというのがこのクラブの一番のポイントですね



八幡の歴史



20日 出口修さんは4月に訪ねた上津屋村の渡し舟の話をして下さいました。当時の上津屋村は里・浜とあり、浜の人たちが畑地を求めて木津川の東側に開墾をして、そ

の内そこに住み始める人もでました。浜から畑に行くには木津川を渡し舟で行きます。造船は村全員からお金集め、船頭は浜の困窮者から4人くじ引きで。(表面にも書きました)流れ橋ができるまで渡し船1艘屎船(淀や伏見に屎尿を買うため)3艘を村が持っていました

八幡まるごと館7月・8月の予定 休み7月25日(木) 8月12日(月)~8月16日(金)

＜パソコン教室＞ 7月1日(月)10時~12時 パソコンを持って来て下さい。費用200円(コーヒーつき) 毎週月曜日10時~12時です
オカリナクラブ ひまわり> 楽しめる時に、参加費100円 7月1日(月)13時30分~ 毎週月曜日、祝日はお休みです
絵手紙講習会> 描く材料があれば持って来て下さい。 7月10日(水)午後1時30分~
＜藍の生葉染め＞ 材料代込みで1000円前後です。 7月19日(金)13時~ 講師 杉浦絹代さん 持ち物 ゴム手袋、エプロン、汚れてもいい服、タオル、絹の布がある方はお持ちください
＜歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N056＞ 8月は22日(木)です 7月24日(木)13時30分~ 講師 出口修さん 参加費100円 月1回で
＜楽しい理科の実験 N055＞ 調味料で10円玉をピカピカにするに変わりました 7月26日(金)13時30分~ 講師 木下章司さん 参加費300円(コーヒーつき)

あんなことこんなこと

* パソコン教室もしていました。いつも同じ方々ですが、その最中に館に来られた方と話しが弾んで、とても楽しいひと時です。
* 八幡まるごと館は沢山の方々に支えていただきながら、6月6日に15年目を迎えました。早いものですね。考えてみたら私も含めて皆さんが歳を重ねてきているという

ことです。初めは人が来られないで悩みました。逆もありましたが、でも、流石にコロナ禍は苦しかったです。気が付けば今高齢化の波にどっぷりと。つながる場を続けられるよう奮闘します。
* 今、原田正純さんから水俣病を学んでいます。次回も、12月に京都で水俣展があります。是非どうぞ(うえたにじゅんこ)